

ITプロ/ITエンジニアのための

徹底攻略

試験番号

1Z0-018

ORACLE
MASTER
BRONZE

BRONZE



ORACLE MASTER

DBA11g

Bronze

問題集

小林 圭 著

株式会社ソキウス・ジャパン 編

インプレスジャパン

本書は、ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 11g資格試験「Bronze DBA11g」の受験対策用の教材です。著者、株式会社インプレスジャパンは、本書の使用による「Bronze DBA11g」への合格を一切保証しません。

本書の内容については正確な記述につとめました。著者、株式会社インプレスジャパンは本書の内容に基づくいかなる試験の結果にも一切責任を負いません。

Oracleは、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、その他本書に記載されているMicrosoft製品は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

その他、本文中の製品名およびサービス名は、一般に各開発メーカーおよびサービス提供元の商標または登録商標です。なお、本文中にはTMおよび®は明記していません。

インプレスジャパンの書籍ホームページ

書籍の新刊や正誤表など最新情報を随時更新しております。

<http://www.impressjapan.jp/>

Web徹底攻略

試験や資格の最新情報、模擬試験などが体験できる資格関連書の専用サイトです。

<http://shikaku.impress.co.jp/>

Copyright © 2008 Socius Japan, Inc. All rights reserved.

本書の内容はすべて、著作権法によって保護されています。著者および発行者の許可を得ず、転載、複写、複製等の利用はできません。

まえがき

ORACLE MASTERは、Oracle製品に関する基本的な知識から実践的な技術力までの幅広い知識を持った技術者を認定する制度です。また、ORACLE MASTER Oracle 9i Databaseからはグローバル資格体系であるOracle Certification Program (OCP)に完全対応し、世界に通用するエンジニアの実力を証明するために欠かせない存在となっています。

ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 11gは、Oracle Databaseの最新版であるOracle Database 11gに対応したエントリーレベルの資格です。本書が対象としているBronze DBA11g試験は、このORACLE MASTER Bronze Oracle Database 11g取得に必須の科目です。

Bronze DBA11g試験では、Enterprise Manager (EM) を使用したデータベースの管理方法を中心に、データベース管理者 (DBA) としての幅広い知識が要求されます。執筆にあたり、このような幅広い知識を効率的に無理なく修得できるよう、解説には設問のポイントに加え、関連知識やEMの図を数多く掲載しました。

Bronze DBA11g試験は決してやさしい試験ではありませんが、本書を活用しOracle Database 11gの仕組みを理解した上で管理操作方法の学習を終えたころには、合格に必要なスキルが身に付いているはずです。本書を手にとられた方がBronze DBA11g試験に合格されることを心より願っております。

最後になりますが、本書の執筆に際してさまざまなご助言をいただきました株式会社ソキウス・ジャパンの坂田様をはじめ、関係者の方々に大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

著者

ORACLE MASTER Oracle Database 11gについて

ORACLE MASTERは、日本オラクルがオラクル製品に対する技術力を認定する資格制度で、IT業界で広く知られています。ORACLE MASTER Oracle Database 11gは、2007年10月に出荷開始されたOracle Database 11gに対応する最新版の認定資格です。

Oracle Database 11gでは、「ITシステムのビジネス変化への迅速な対応」「コンプライアンス遵守」「増加し続ける大量データの管理」などの問題を解決するための機能拡張が行われています。ORACLE MASTER Oracle Database 11gは、Oracle Database 11gについて体系的な知識を持ち、こうした問題を解決することができるデータベース技術者を認定するための資格です。

ORACLE MASTERは、2003年10に行われた認定資格制度の改定により、現在ではOracle Certification Program (OCP) と呼ばれるグローバルな資格体系になっています。ORACLE MASTER Silver以上の資格は、それぞれ対応するOCPとしても認定されます（以下の図を参照）。これにより、全世界で共通の基準でオラクル製品に対する技術力を証明することができます。

【ORACLE MASTERの資格体系】

ORACLE MASTER	Oracle Certification Program (OCP)
ORACLE MASTER Platinum	→ Oracle Certified Master (OCM)
ORACLE MASTER Gold	→ Oracle Certified Professional (OCP)
ORACLE MASTER Silver	→ Oracle Certified Associate (OCA)
ORACLE MASTER Bronze [日本国内限定]	

ORACLE MASTER Bronzeについて

ORACLE MASTER Bronze Oracle Database 11g（以下、ORACLE MASTER Bronze）はエントリーレベルの資格です。ORACLE MASTER Bronze資格を取得するためには、本書で扱う「Bronze DBA11g」試験の合格が必須です。また、新規と旧バージョンからのアップグレードでは認定までのパスが異なります。

●新規の場合

新たにORACLE MASTER Bronze資格を取得するためには、下記の①または②の条件を満たした上で「Bronze DBA11g」に合格する必要があります。

- ①「11gSQL基礎I (1Z0-051)」または「Bronze SQL基礎I (1Z0-017)」のいずれか1科目に合格

②「SQL (1Z0-011)」と「Oracle入門 (1Z0-012)」の2科目に合格

上記の①もしくは②を経た上で、「Bronze DBA11g (1Z0-018)」に合格

●10gからアップグレードする場合

すでにORACLE MASTER Bronze Oracle Database 10gとして認定されている場合は、「Bronze DBA11g (1Z0-018)」に合格することで、11gへのアップグレードが可能です。

●9iからアップグレードする場合

Oracle Silver Fellowをすでに取得している場合は、「Bronze DBA11g (1Z0-018)」に合格することで、11gへのアップグレードが可能です。

Bronze DBA11gの試験概要

下記の試験概要は、2010年7月1日時点の実施内容です。問題数や合格ラインは変更される可能性がありますので、受験前には必ず日本オラクルのWebサイトで確認してください。

また、本書の第11章「総仕上げ問題」の問題数は下記に準じています。

試験名	Bronze DBA11g
試験番号	1Z0-018
問題数	48問
合格ライン	60%
試験時間	75分
受験料	22,260円 (税込み)

出題形式

試験は、コンピュータのディスプレイに表示される問題に、コンピュータを使用して解答する方式で行われます。また、出題形式は多岐選択方式（複数選択と単一選択）です。出題文を読んでから、項目を必要な数だけ選択していきます。

問題の中には、Oracle Database 11gの各種ツールの画面を見て、設問に答えるものもあります。このような問題では、画面に「資料」と書かれたボタンが表示され、ボタンをクリックすると別のウィンドウに画面イメージが表示されるようになっています。画面イメージを見ながら、設問が書かれたウィンドウに表示されている選択肢から正答を選びます。

受験申し込み方法

ORACLE MASTER試験を受験するには、次の方法があります。受験場所によってそれぞれ申し込み方法が異なりますので注意してください。

ピアソンVUE認定試験会場にて受験

全国各地にあるピアソンVUE認定試験会場を受験できます。ピアソンVUEのWebページから申し込むか、コールセンターに電話で申し込むことができます。Webページから申し込む場合は、あらかじめ受験者登録の手続をWebで行い、IDを取得しておく必要があります。

URL : <http://www.pearsonvue.com/japan>

TEL : 0120-355-583 または 0120-355-173

FAX : 0120-355-163

E-Mail : pvjpreg@pearson.com

受付時間 : 土日祝日を除く平日、午前9時～午後6時

※Webページからの初回申し込み時には、プロメトリックIDとパスワードを取得する必要があります。

所属の企業・団体指定の会場にて受験

企業や部署単位で受験する場合は、インターネット環境を利用したインターネット試験を利用することができます。詳細については下記のWebページを参照してください。

URL <http://www.oracle.com/global/jp/education/certification/onsite.html>

Email ou_sales_jp@oracle.com

本書の活用方法

本書は、カテゴリ別に分類された、問題と解答で構成されています。試験の出題範囲に沿った問題に解答したのち、解説を読んで学習すると、合格レベルの実力が身に付きます。また、実際の試験に近い形式になっていますので、より実戦的に学習できます。

問題

本書には、Oracle Database 11gの各種ツールの画面イメージを見ながら解く問題も用意しています。実際の試験では、画面イメージは別のウィンドウに表示されます。

多岐選択問題

12. 下図のように表の類似作成を行ったときに複製されない情報を選びなさい。



- A. 列名
- B. 列のデータ型
- C. 制約
- D. 表データ

→ P160

解答ページ

問題の右下に、解答ページが表示されています。ランダムに問題を解くときも、解答ページを探すのに手間取ることがありません。

チェックボックス

確実に理解している問題のチェックボックスを塗りつぶしながら問題を解き進めると、2回目からは不確かな問題だけを効率的に解くことができます。すべてのチェックボックスが塗りつぶされれば合格は目前です。

解答

解答には、問題の正解および不正解の理由だけでなく、用語や重要事項などが詳しく解説されています。

解説

正解である選択肢は**D**のように、不正解である選択肢はA、B、Cのように表記し、それぞれの根拠を示しています。また、重要な用語は太字で示しています。

12. D

EMIによる表の類似作成では、列名 (A)、データ型 (B)、制約 (C) はコピーされますが、表に含まれているデータ (D) はコピーされません。したがって、**D**が正解です。

本書の問題、解答および解説は、Oracle Database 11g Release 1をベースに構成されています。また、画面イメージはOracle Database 11g Release 1のものを使用しています。

目次

まえがき	3
ORACLE MASTER Oracle Database 11gについて	4
受験申し込み方法	6
本書の活用方法	7

第1章 Oracleデータベース管理の概要

問題	12
解答	17

第2章 Oracleのセットアップ

問題	24
解答	32

第3章 Oracle Enterprise Managerの使用

問題	44
解答	48

第4章 ネットワークの構成

問題	54
解答	61

第5章 インスタンスの管理

問題	72
解答	82

第6章 データベース記憶域の管理

問題	100
解答	112

第7章 ユーザーの管理

問題	128
解答	137

第8章 オブジェクトの管理

問題	148
解答	156

第9章 バックアップとリカバリ

問題	166
解答	180

第10章 データベースのチューニング

問題	198
解答	205

第11章 総仕上げ問題

問題	214
解答	230

索引	243
----	-----

第

1

章

Oracleデータベース管理の概要

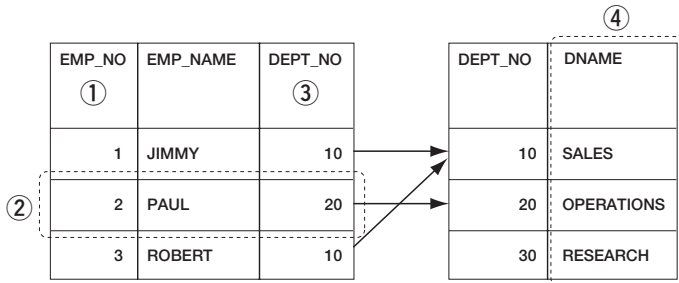
- Oracle Databaseの概要
- Oracleインスタンスの概要
 - DBAのタスク
 - 管理ツール

1. 次の中からOracle Databaseの説明として誤っているものを2つ選びなさい。

- A. リレーショナルデータベース管理システムである
- B. データは二次元の表に格納する
- C. SQL文を使用してデータベースにアクセスする
- D. さまざまな情報を格納するために、表内に複数のシートを作成する
- E. すべてのデータを1つの表で管理する

→ P17

2. 下図において番号と用語の組み合わせとして正しいものを4つ選びなさい。



- A. ①：外部キー
- B. ①：主キー
- C. ②：行
- D. ②：列
- E. ③：一意キー
- F. ③：外部キー
- G. ④：行
- H. ④：列

→ P17

3. EMP表の説明として誤っているものを2つ選びなさい。

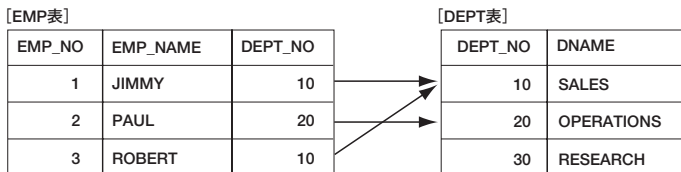
[EMP表]

EMP_NO	ENAME	SALARY	DEPT_NO
1	JOHN	1200	20
2	ROBERT	2000	
3	JIMMY	3000	10
4	JOHN	1500	20

- A. EMP_NO列に主キーを設定できる
- B. ENAME列に一意キーを設定できる
- C. SALARY列にチェック制約を設定できる
- D. DEPT_NO列にNOT NULL制約を設定できる

→ P17

4. 下図に示すようにEMP表のDEPT_NO列はDEPT表のDEPT_NO列に対する外部キーを設定している。このときの説明として誤っているものを2つ選びなさい。ただし、外部キーの定義は変更できないものとする。



- A. DEPT表のDEPT_NO列は主キーもしくは一意キーが設定されている必要がある
- B. PAULのDEPT_NOを15に変更することはできない
- C. RESEARCHのDEPT_NOを40に変更できる
- D. EMP表は削除できない
- E. DEPT表を削除できる

→ P18

5. 次のような列構成の表を用いて生徒のデータを管理する。また、表は以下の要件①～③を満たすものとする。

生徒番号	学年	クラスID	クラス内生徒番号	生徒名
------	----	-------	----------	-----

- ① 生徒番号はすべての生徒に付与し重複させない
- ② クラス内生徒番号は、クラス内で重複しないように付与する
- ③ 生徒は必ずいずれかの学年およびクラスに所属している

このとき、次の中から誤っている説明を2つ選びなさい。

- A. 生徒番号列を主キーに設定する
- B. 生徒番号列とクラス内生徒番号列の複合主キーを設定する
- C. 学年列にNOT NULLを設定する
- D. クラスID列にNOT NULLを設定する
- E. 生徒名列に一意キーを設定する
- F. 生徒名列にNOT NULLを設定する

→ P18

6. 以下のような定義を持つDEPT表を作成する。

[DEPT表]

列名	データ型	制約
DEPT_NO	NUMBER(3)	PRIMARY KEY
DEPT_NAME	VARCHAR2(20)	NOT NULL
LOCATION	CHAR(20)	CHECK

このDEPT表の説明として正しいものを2つ選びなさい。

- A. DEPT_NO列からNOT NULL制約を外すことができる
- B. LOCATION列にNOT NULL制約を付けることができる
- C. DEPT_NAME列に重複するデータを格納できない
- D. LOCATION列には指定した文字列のみ格納できる

→ P18

7. 次の中でSQLコマンドでないものを2つ選びなさい。

- A. ALTER
- B. TRUNCATE
- C. DESCRIBE
- D. REVOKE
- E. SPOOL

→ P19

8. 次の中でDDL文によって実現する機能でないものを2つ選びなさい。

- A. ユーザーの作成
- B. 表の削除
- C. データ変更の確定
- D. ビューの名称変更
- E. 表データの削除

→ P19

9. SQLコマンドの名称と説明の組み合わせとして正しいものを3つ選びなさい。

- A. INSERT：表に新規行を挿入
- B. ALTER：表の既存データを更新
- C. ROLLBACK：トランザクションの取り消し
- D. SAVEPOINT：データファイルの上書き保存
- E. GRANT：アクセス権限の付与
- F. TRUNCATE：表の削除

→ P19

10. データベース管理者がユーザーJOEに対してREVOKE文を実行した。これにより、このあと、JOEに起こる可能性のあるものを次の中から2つ選びなさい。

- A. SELECTできなかった表がSELECTできるようになる
- B. データベースにCONNECTできなくなる
- C. JOEの所有する表が削除されている
- D. MIKEの所有する表にINSERTできなくなる

⇒ P20

11. 次の中からOracleインスタンスに含まれないものを2つ選びなさい。

- A. 共有プール
- B. ログライター
- C. Javaプール
- D. 制御ファイル
- E. ラージプール
- F. データファイル

⇒ P20

12. Oracleインスタンスおよびデータベースの説明として誤っているものを選びなさい。

- A. OracleインスタンスはSGAとPGAというメモリ構造を含んでいる
- B. Oracleデータベースは3種類のファイルで構成されている
- C. SMONはOracleインスタンスを構成する要素の1つである
- D. アーカイブログファイルは、Oracleデータベースの構成要素ではない

⇒ P20

13. Oracleデータベース管理者(DBA)のタスクの説明として正しいものを選びなさい。

- A. Oracleソフトウェアのインストールはアプリケーション開発者のタスクであり、DBAのタスクではない
- B. データベースのセキュリティ管理はDBAのタスクではない
- C. データベースの作成はDBAの重要なタスクの1つである
- D. 大規模なデータベース環境においても、DBAは1人で担当すべきである

⇒ P21

14. Oracleデータベースの管理に使用するツールの名前とその説明の組み合わせとして正しいものを3つ選びなさい。

- A. SQL*Loader：外部ファイルからデータをロードするツール
- B. Data Pump：データベースをアップグレードするツール
- C. Database Configuration Assistant：データベースユーザーの作成用ツール
- D. Oracle Net Manager：Oracle Netの構成
- E. Oracle Enterprise Manager：データベース管理用のGUIツール
- F. SQL*Plus：コマンドラインのバックアップツール
- G. Recovery Manager：データベース間のデータの移行ツール

→ P21

15. 次の文章はどのデータベース管理ツールを説明したものか。以下の中から選びなさい。

Oracleから提供されたテンプレートや、管理者の独自の設定を使用して、データベースを作成する

- A. Oracle Universal Installer
- B. Database Configuration Assistant
- C. Enterprise Manager
- D. Recovery Manager

→ P22

16. 次の中からData Pumpの機能に関する説明として正しいものを選びなさい。

- A. データベース管理用の標準コマンドラインインタフェース
- B. Oracleのネットワーク構成を作成するGUIツール
- C. データベースのバックアップやリストア機能を提供するツール
- D. データベースから別のデータベースにデータを高速に転送するツール

→ P22

第1章 Oracleデータベース管理の概要

解答

1. D、E

Oracle Databaseはリレーショナルデータベース管理システム（RDBMS）です。RDBMSでは、データを二次元の表で管理し、Structured Query Language（SQL）を使用してデータベースにアクセスします。したがって、A、B、Cは正しい記述です。リレーショナルデータベースではシートという概念はありません（D）。また、表は正規化を行い重複したデータを排除した上で複数の表に格納するのが一般的です（E）。誤りを指摘する問題ですので、DとEが正解です。

2. B、C、F、H

リレーショナルデータベースで使用する用語を確認しておきましょう。

【リレーショナルデータベースに関する用語】

用語	説明
行	1つのレコードに対応する列の集まり
列	特定のデータドメインを表す表内の垂直方向の領域
フィールド	行と列の交差点部分
主キー	表内の各行を一意に識別する列または列の集合。表内で1つの主キーのみが定義できる
外部キー	表同士の関係を定義する列。列または列の集合の値が、それぞれ関連する表の一意キーまたは主キーの値と一致する必要がある
NULL値	値が含まれていないフィールド

したがって、B、C、F、Hが正解です。

3. B、D

各選択肢に関する説明は以下のとおりです。

- A. EMP_NO列は重複した値を持っておらず、かつNULL値も含んでいません。したがって、主キーを設定できるので正しい記述です。
- B. ENAME列にはJOHNという名前が2つ格納されているため、一意キーは設定できません。したがって、記述は誤りです。一般的に、名前を格納する列は同姓同名の可能性があるので一意キーを設定しません。

- C. SALARY列は給与データを格納する列ですが、正の値のみの入力を許可するなどのチェック制約を設定できます。正しい記述です。
- D. DEPT_NO列には、すでにNULL値が格納されています。したがって、この列にNOT NULL制約を設定できません。記述は誤りです。

誤りを指摘する問題ですので、**B**と**D**が正解です。

4. D、E

各選択肢に関する説明は以下のとおりです。

- A. 外部キーが参照する列は必ず一意である必要があります。正しい記述です。
- B. 参照先のDEPT表のDEPT_NO列には15という値が格納されていません。外部キーの値は、親表に存在しない値に変更できないため、正しい記述です。
- C. RESEARCHの格納されている行はEMP表から参照されていません。このように外部キーの参照先に指定されている列であっても、実際に参照されていない場合は変更が可能です。正しい記述です。
- D. EMP表は参照する側の表です。したがって、削除が可能です。記述は誤りです。
- E. DEPT表はEMP表から参照されている親表ですので、外部キーの定義を変更せずに削除することはできません。記述は誤りです。

誤りを指摘する問題ですので、**D**と**E**が正解です。

5. B、E

要件①より生徒番号列は一意であり、かつNULL値が含まれないことがわかります。したがって、Aは正しい記述です。生徒番号列単独で主キーの要件を満たすことができるため、**B**は適切ではありません。要件③から、C、D、Fは正しい記述です。同姓同名の入力の可能性があるため、**E**の記述は適切ではありません。以上より**B**と**E**が正解です。

6. B、D

各選択肢に関する説明は以下のとおりです。

- A. 主キーからNOT NULL制約のみを取り除くことはできません。記述は誤りです。
- B. 正しい記述です。

- C. DEPT_NAME列にはNOT NULL制約が設定されていますが、一意キーは設定されていないため、記述は誤りです。
- D. LOCATION列のCHECK制約により、指定した文字列のみの入力に制限されます。したがって、正しい記述です。

以上より**B**と**D**が正解です。

7. C、E

SQL文の分類を確認しておきましょう。

【SQL文の分類】

分類	SQLコマンド例	説明
データ検索	SELECT	表データの検索
データ操作言語 (DML)	INSERT	表へ新しいデータを挿入
	UPDATE	表の既存行データを更新
	DELETE	表の既存行データを削除
データ定義言語 (DDL)	CREATE	新しいオブジェクトの作成
	ALTER	オブジェクトの定義を変更
	RENAME	オブジェクト名の変更
	TRUNCATE	表データの切り捨て
トランザクション 制御	COMMIT	DMLによる変更の確定
	ROLLBACK	DMLによる変更の取り消し
	SAVEPOINT	ROLLBACKできるポイントの設定
データ制御言語 (DCL)	GRANT	アクセス権限の付与
	REVOKE	アクセス権限の削除

CのDESCRIBE、**E**のSPOOLはSQL*Plus専用のコマンドで、SQLコマンドではありません。DESCRIBEはオブジェクトの定義情報の確認に使用し、SPOOLは表示内容をファイルに出力するときに使用します。以上より**C**と**E**が正解です。

8. C、E

解答7の解説より、**C**はCOMMIT文（トランザクション制御）、**E**はDELETE文（DML文）で実現します。したがって、**C**と**E**が正解です。

9. A、C、E

SQLコマンドについては、解答7を参照してください。

10. B、D

REVOKEはアクセス権限を取り除くときに使用するコマンドです。Aはアクセス権限の付与によって実現されるため誤りです。BはCREATE SESSION権限を取り除かれることによって起こるので正しい記述です。REVOKE文によって表が削除されることはありません。このため、Cは誤りです。表に対するINSERT権限を取り除くことによりDの状態になるので正しい記述です。以上よりBとDが正解です。

11. D、F

Oracleインスタンスはシステムグローバル領域（SGA）というメモリー構造とバックグラウンドプロセスから構成されます。また、SGAとバックグラウンドプロセスは主に以下の要素から構成されています。

【SGAとバックグラウンドプロセスの要素】

SGA	バックグラウンドプロセス
データベースバッファキャッシュ	システムモニター（SMON）
共有プール	プロセスモニター（PMON）
REDOログバッファ	データベースライター（DBWn）
ラージプール	ログライター（LGWR）
Javaプール	チェックポイント（CKPT）

Dの制御ファイルとFのデータファイルはデータベースファイルと呼ばれ、Oracleインスタンスには含まれていません。したがって、DとFが正解です。インスタンスの詳細については、第5章の解答1、2を参照してください。

12. A

各選択肢に関する説明は以下のとおりです。

- A. プログラムグローバル領域（PGA）は、サーバープロセスに対して割り当てられる、共有されないメモリー構造で、Oracleインスタンスには含まれません。よって、記述は誤りです。
- B. Oracleデータベースを構成するファイルは、制御ファイル、データファイル、REDOログファイルの3種類です。よって、正しい記述です。
- C. SMONはOracleインスタンスを構成する要素の1つです。よって、正しい記述です。
- D. アーカイブログファイルはREDOログファイルのコピーです。これはOracleデータベースの構成要素ではありません。したがって、正しい記述です。

誤りを指摘する問題ですので、Aが正解です。

13. C

各選択肢に関する説明は以下のとおりです。

- A. OracleソフトウェアのインストールはDBAのタスクの1つです。記述は誤りです。
- B. データベースのセキュリティ管理もDBAのタスクの1つです。記述は誤りです。
- C. データベースの作成はDBAの重要なタスクの1つです。正しい記述です。
- D. 大規模なデータベース環境では複数のDBAで仕事を分担します。記述は誤りです。

以上より**C**が正解です。

14. A、D、E

Oracleデータベース管理に使用するツールを確認しておきましょう。

【Oracleデータベース管理用ツール】

ツール名	説明
Oracle Universal Installer (OUI)	Oracleソフトウェアのインストールに使用するGUIツール
Database Configuration Assistant (DBCA)	データベースを作成するGUIツール
Database Upgrade Assistant (DBUA)	既存データベースから新しいOracleバージョンへアップグレードするとき使用するGUIツール
Oracle Net Manager (Net Manager)	Oracle Netのネットワークを構成するGUIツール
Oracle Enterprise Manager (EM)	ブラウザベースのデータベース管理ツール
SQL*Plus	データベース管理用のコマンドラインツール
SQL Developer	GUIベースのデータベース管理用のコマンドラインツール
Recovery Manager (RMAN)	データベースのバックアップ・リストア用ツール
Data Pump	データベース間のデータ転送ツール
SQL*Loader	外部ファイルをOracleにロードするツール

以上より**A、D、E**が正解です。

15. B

データベースを作成するツールは、**B**のDatabase Configuration Assistant (DBCA) です。その他のツールについては解答14を参照してください。

16. D

Data Pumpを使用すると、データベース間でデータを高速に転送できます。したがって、**D**が正解です。Data PumpはデータをOSファイルに出力するData Pump Exportと、出力されたファイルをターゲットデータベースにロードするData Pump Importから構成されています。AはSQL*Plus、BはNet Manager、CはRecovery Managerの機能をそれぞれ述べたものです。

第

2

章

Oracleのセットアップ

- Oracleソフトウェアのインストール
 - データベースの作成

1. Oracle Universal Installer (OUI) の機能として誤っているものを選びなさい。
- A. すでにインストールされているOracleソフトウェアの表示
 - B. 新規ソフトウェアのインストール
 - C. OracleソフトウェアをインストールするOSユーザーの作成
 - D. 既存Oracleソフトウェアのアンインストール
- P32
2. Oracleソフトウェアをインストールするのに必要な条件として正しいものを2つ選びなさい。
- A. 100Mbps以上のネットワーク回線
 - B. 十分なメモリー容量
 - C. フロッピーディスクドライブ
 - D. HDDの十分な空き容量
- P32
3. Oracle Universal Installer (OUI) を用いて非対話的にOracleソフトウェアをインストールする際に用意すべきファイルを選びなさい。
- A. レスポンスファイル
 - B. サイレンスファイル
 - C. 初期化ファイル
 - D. パラメータファイル
- P33
4. Oracle Universal Installer (OUI) を使用してLinux上にOracle Database 11gをインストールする。次の中から最小ハードウェア条件を満たしていないものを選びなさい。
- A. 物理メモリーが1GB
 - B. /tmpサイズが500MB
 - C. スワップ領域サイズが100MB
 - D. 使用可能HDD領域サイズが10GB
- P33
5. Oracleソフトウェアを含むディレクトリを指定する環境変数を選びなさい。
- A. ORACLE_BASE
 - B. ORACLE_HOME
 - C. ORACLE_SID